

# ミセスエリザベスグリーンの庭に

浅山泰美

ミセスエリザベスグリーンの庭に  
秋が来て  
白いコスモスがたおやかに揺れ  
飲む紅茶の種類も変わる  
空には いちめんの羊雲

わかっているわ  
虫たちは もうじき  
枯れた草を分けて  
遠い家に帰る  
家路の果てを  
ひととき 秋の夕陽が染めて  
その先にあるのは  
ほんとうの静けさだけ

長いあいだ  
わたしは学びつづけた  
一本の木のように  
ただそこにあることを。  
忘れられた泉のほとり  
啼(な)いていた名も知らぬ小鳥  
ふいに  
もう 手放しなさいと  
声がするまで

豊かな実りは いつも  
何もないところへ還ってゆく  
答えなどはない ただ  
人生に  
何も求めない者だけが  
幸せでいられる

蜻蛉が低く飛ぶ夕べ  
エリザベスは 庭でひとり  
虫の音を聴いている  
虫たちは  
枯れた草を分けて  
生まれた家に帰る  
どうぞ その扉に  
鍵はかけないで。  
無へと通じている  
ふかみどりのドアに